

ラツーダ錠 20mg

ラツーダ錠 40mg

ラツーダ錠 60mg

ラツーダ錠 80mg

【この薬は？】

販売名	ラツーダ錠 20mg Latuda tablets 20mg	ラツーダ錠 40mg Latuda tablets 40mg	ラツーダ錠 60mg Latuda tablets 60mg	ラツーダ錠 80mg Latuda tablets 80mg
一般名	ルラシドン塩酸塩 Lurasidone Hydrochloride			
含有量 (1錠中)	20mg	40mg	60mg	80mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、精神神経用剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内の神経伝達物質の受容体に作用してそのバランスを整えます。
- ・次の病気の人に処方されます。

統合失調症

双極性障害におけるうつ症状の改善

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・昏睡状態の人
- ・バルビツール酸誘導体などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある人
- ・イトラコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール（経口剤、口腔用剤、注射剤）、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ポサコナゾール、リトナビルを含む製剤、ダルナビル、アタザナビル、ホスアンプレナビル、エンシトレルビル、コビシスタットを含む製剤、クラリスロマイシン、ロナファルニブ、セリチニブを使用している人
- ・リファンピシン、フェニトイン、ホスフェニトインを使用している人
- ・過去にラツードに含まれる成分で過敏症のあった人
- ・アドレナリンを使用している人（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療、又は歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く）

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・パーキンソン病またはレビー小体型認知症の人
- ・てんかんなどのけいれんをおこす疾患を有する人、または過去にてんかんなどのけいれんがあった人
- ・脱水の人や栄養状態の悪い人
- ・死にたいと強く思ったり考えたりしたことがある人
- ・糖尿病の人または過去に糖尿病になったことがある人、糖尿病になりやすい人（血縁に糖尿病の人がいる人、高血糖の人、肥満の人など）
- ・過去に不整脈のあった人、先天性QT延長症候群（心電図の波形の異常）の人
- ・心臓や血管の病気の人、低血圧の人、またはこれらが疑われている人
- ・長時間動かないでじっとしている人、長期間病床にある人、肥満の人、脱水の人
- ・腎臓に中等度以上の障害のある人
- ・肝臓に中等度以上の障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

〔双極性障害におけるうつ症状の改善の場合〕

- 24歳以下の人で抗うつ剤を使用した場合、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。24歳以下でこの薬を使う人は医師と十分に相談してください。
- この薬には併用してはいけない薬[「○次の人は、この薬を使用することはできません。」を参照]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

- ・飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
- ・通常、成人の飲む量および回数は次のとおりです。

〔統合失調症の場合〕

販売名	ラツーダ錠 20mg	ラツーダ錠 40mg	ラツーダ錠 60mg	ラツーダ錠 80mg
1回量	2～4錠	1～2錠	1錠	0.5～1錠
飲む回数	1日1回 食後に飲みます。			

〔双極性障害におけるうつ症状の改善の場合〕

販売名	ラツーダ錠 20mg	ラツーダ錠 40mg	ラツーダ錠 60mg	ラツーダ錠 80mg
1回量	1～3錠	0.5～1.5 錠	1錠	0.5錠
飲む回数	1日1回 食後に飲みます。			

この薬を空腹時に飲むと期待した効果を得られないことがあるため、食後に飲んでください。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に1回分を食後または軽食をとった後に飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

錐体外路症状（動きが遅い、手足のふるえやこわばりなど）、昏睡（意識の消失、刺激に全く反応しない）、呼吸抑制（呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる）、不整脈（めまい、動悸、脈が遅くなるなど）、低血圧（脱力感、めまい、ふらつきなど）等があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・興奮、不眠、不安などの症状が悪化したら、医師または薬剤師に相談してください。
- ・眠気、注意力・集中力・反射能力などの低下がおこることがあるので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- ・この薬の使用により、高血糖や糖尿病の悪化があらわれ、糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸

吸、意識の消失)などがあらわれることがあります。高血糖の症状(体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える)に注意してください。特に糖尿病の人、過去に糖尿病になったことがある人、糖尿病になりやすい人では、血糖値の測定などが行われます。

- ・患者さんや家族の方は、高血糖の症状があらわれることがあることを十分に理解できるまで説明を受けてください。これらの症状があらわれたらこの薬を飲むのをやめて、ただちに受診してください。
- ・この薬を服用し始めた時、いったん服用を中止し再度服用し始めた時、薬の量が増えた時に低血圧の症状(脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、意識の消失)があらわれることがあります。これらの症状があらわれたら医師または薬剤師に相談してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・アルコール飲料はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・グレープフルーツを含む食品によって、この薬の作用が強くあらわれることがあります。一緒に飲まないでください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

〔双極性障害におけるうつ症状の改善の場合〕

- ・うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあるので、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ・ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。
- ・不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、眠れない、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、医師に相談してください。この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。









重大な副作用	主な自覚症状
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
遅発性ジスキネジア ちはつせいジスキネジア	意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、意思に反して体が動く
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にぼーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
高血糖 こうけつとう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える
糖尿病性ケトアシドーシス とうにようびょうせいケトアシドーシス	吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸
糖尿病性昏睡 とうにようびょうせいこんすい	吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸、意識の消失
肺塞栓症 はいそくせんしょう	胸の痛み、突然の息切れ
深部静脈血栓症 しんぶじょうみやくけっせんしょう	皮膚が青紫～暗紫色になる、下肢のはれ、下肢のむくみ、下肢の痛み、下肢（もしくは、はれた部分）の熱感
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	高熱、汗をかく、体のこわばり、意思に反して体が動く、顔や手足の筋肉がぴくつく、体がだるい、体重が減る、脱力感、突然の高熱、寒気
頭部	ぼーっとする、一時的にぼーっとする、意識の低下、意識の消失
口や喉	話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、吐き気、甘酸っぱいにおいの息、喉が渇く、水を多く飲む、喉の痛み
胸部	呼吸数が増える、胸の痛み、突然の息切れ、深く大きい呼吸
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、下肢のはれ、下肢のむくみ、下肢の痛み、下肢（もしくは、はれた部分）の熱感、手足のこわばり、手足のしびれ
皮膚	皮膚が青紫～暗紫色になる

部位	自覚症状
筋肉	筋肉の痛み
尿	尿量が増える、尿が赤褐色になる
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

販売名	ラツダ錠 20mg	ラツダ錠 40mg
P T P シート		
形状	円形の錠剤（割線入り）   	円形の錠剤（割線入り）   
直径	6.1mm	8.1mm
厚さ	2.9mm	3.3mm
重さ	82mg	163mg
色	白色～帯黄白色	白色～帯黄白色

販売名	ラツダ錠 60mg	ラツダ錠 80mg
PTPシート		
形状	楕円形の錠剤 	楕円形の錠剤（割線入り） 
直径	長径 13.3mm 短径 5.7mm	長径 12.2mm 短径 6.9mm
厚さ	3.8mm	5.2mm
重さ	243mg	324mg
色	白色～帯黄白色	白色～帯黄白色

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ラツダ錠 20mg	ラツダ錠 40mg	ラツダ錠 60mg	ラツダ錠 80mg
有効成分	ルラシドン塩酸塩			
添加剤	D-マンニトール、部分アルファー化デンプン、クロスカルメロースナトリウム、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム、マクロゴール6000、酸化チタン、カルナウバロウ			

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：住友ファーマ株式会社 (<https://www.sumitomo-pharma.co.jp>)

くすり情報センター

電話：0120-885-736

受付時間：9時～17時30分

(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)